

資料3-18. 三重県における赤潮発生状況（平成28年1月～12月）

整理番号	発生時期(月日)	発生海域	赤潮構成種名	発生状況および発達状況	最大面積(km <sup>2</sup> )	発生水深(m)	最高細胞数(細胞/ml)	漁業被害(被害整理番号)	情報源
1 (S-1)	6月6日	志摩度会 (阿曾浦)	<i>Chattonella spp.</i>	6.6に阿曾浦で <i>C. spp</i> 赤潮が発生した。最高細胞密度は10細胞/ml(6.6、この浦奥、7m層)であった。6.7の観測では解消していた。	不明	7	10	無	南伊勢町南島水産種苗センター
2 (K-1)	6月29日- 7月7日	熊野灘北部 (尾鷲湾)	<i>Karenia mikimotoi</i>	6.29に尾鷲湾で <i>K. mikimotoi</i> 赤潮が発生した。7.7まで持続し、最高細胞密度は2,325細胞/ml(6.29、尾鷲湾古里沖、2m層)であった。	不明	2-10	2,325	無	漁業者、三重県水産研究所
3 (S-2)	7月25日	志摩度会 (五ヶ所湾)	<i>K. mikimotoi</i>	7.25に五ヶ所湾で <i>K. mikimotoi</i> 赤潮が発生した。最高細胞密度は1,610細胞/ml(7.25、田曾浦、10m層)であった。7.27の観測では解消していた。	不明	5-10	1,610	無	南伊勢町南勢水産種苗センター
4 (S-3)	8月18日- 9月8日	志摩度会 (英虞湾)	<i>Chattonella marina</i>	8.18に英虞湾で <i>C. marina</i> 赤潮が発生した。9.8まで持続し、最高細胞密度は1,950細胞/ml(8.26、神明浦、5m層)であった。	不明	0.5-10	1,950	無	漁業者、三重県水産研究所
5 (S-4)	8月19日	志摩度会 (英虞湾)	<i>Heterosigma akashiwo</i>	8.19に英虞湾立神浦で <i>H. akashiwo</i> 赤潮が発生した。最高細胞密度は13,800細胞/ml(8.19、大明神前、0m層)であった。8.22の観測では解消していた。	不明	不明	13,800	無	漁業者
6 (S-5)	9月5日- 14日	志摩度会 (阿曾浦)	<i>C. marina</i> <i>H. akashiwo</i>	2種の複合赤潮。 <i>C. marina</i> は9.5にこの浦で赤潮が確認された。9.14まで持続し、最高細胞密度は1,763細胞/ml(9.5、この浦奥、0m層)であった。 <i>H. akashiwo</i> は9.7にこの浦で赤潮が確認され、その際に <i>C. marina</i> との複合赤潮を形成していた。9.8の観測では解消していた。最高細胞密度は8,952細胞/ml(9.7、この浦中央、0m層)であった。	不明	<i>C. m</i> 0-8 <i>H. a</i> 0	<i>C. m</i> 1,763 <i>H. a</i> 8,952	無	南伊勢町南島水産種苗センター
7 (S-6)	9月28日- 10月3日	志摩度会 (英虞湾)	<i>Heterocapsa circularisquama</i>	9.28に英虞湾で <i>H. circularisquama</i> 赤潮が発生した。初認は9.20であった。10.3まで持続し、最高細胞密度は660細胞/ml(10.3、鵜方浦、0.5m)であった。	不明	0-2	660	無	漁業者、三重県水産研究所
8 (S-7)	11月7日- 15日	志摩度会 (五ヶ所湾)	<i>Mesodinium rubrum</i>	11.7に五ヶ所湾で <i>M. rubrum</i> 赤潮が発生した。11.15まで持続し、最高細胞密度は6,220細胞/ml(11.7、ユブノ浦、0m層)であった。	不明	0-2	6,220	無	南伊勢町南勢水産種苗センター

整理番号	発生時期 (月日)	発生海域	赤潮構成種名	発生状況および発達状況	最大面積 (km <sup>2</sup> )	発生水深 (m)	最高細胞数 (細胞/ml)	漁業被害 (被害整理番号)	情報源
9 (K-2)	12月26 日	熊野灘北部 (賀田湾)	<i>M. rubrum</i>	12.26に賀田湾で <i>M. rubrum</i> 赤潮が発生した。最高細胞密度は13,800細胞/ml(12.26、曾根漁港、0m層)であった。	不明	0	13,800	無	三重県水産 研究所

【注】

(1) 「整理番号」は、発生時期の順に一連番号を記載し、( )内には発生海域毎に一連番号を記載した。(I、S、Kはそれぞれ伊勢湾、志摩度会、熊野灘北部の各海域を示す。)

(2) 2あるいは3海域にまたがって発生した場合は、各海域のそれぞれに発生したものとして扱った。従って、例えば2つの海域にまたがって発生した場合は、1つの発生に対して2つの整理番号を与え、発生件数は2件とカウントした。

(3) 「発生時期」は、発生が確認された日から消滅日までを記載することを基本としたが、同一海域で発生、消滅(一時的な細胞数の減少)を繰り返したものについては、最初の発生から最後の発生まで(完全な赤潮の終息まで)を1単位として記載した。